

# とよかんだより

2018.11.29  
磐田北小  
学校図書館

朝晩と寒くなってきました。イチヨウや楓が色づき始め、赤や黄色の美しい季節がやってきます。今年には台風の塩害で枯れてしまった葉も多く、このあたりではどれだけの紅葉が見られるかと少し心配しています。果たしてどのように色づくでしょうか。



貸出2万冊、突破!!

## ♪本を大切にしよう

先日、磐田市立中央図書館へ行くと、入り口に「本が泣いています」というコーナーができていました。いたずら書き、ぬれて波打ってしまった本、破かれた本…傷ついた本がたくさん並んでいました。

学校図書館の本はみんなの本です。一人一人が大切に使うことで、いつまでもみんながきれいな状態で読むことができます。大切に使うことができます。大切に読んでください。お願いします。



(文責:学校司書 かつまたゆみこ)

# 新しく入った本

平和祈念文庫には、戦争や紛争関連の本があります。歴史を知って、自分たちの時代に何をすべきかを考えたいですね。今回、読み物がたくさん入りましたので、紹介します。

『8月6日のこと』 絵本  
中川ひろたか 河出書房新社

「おかあさんはどんなきもちだったでしょう。だいすきだったおにいさんは、いつしゅんでいなくなってしまったのです。」 広島あの日のこと。

『トンネルの森 1945』 913カ  
角野栄子 角川書店

なじめない義母と一緒に疎開することになったイコ。疎開先にある大きな森に脱走兵が逃げ込んだというわさを聞くが、孤独なイコは森の中で兵隊の影を追うようになる。角野栄子が自らの戦争体験から書いた物語。

『はらっぱ 戦争・大空襲・戦後…いま』 絵本  
神戸光男 童心社

『光のうつしえ 広島 ヒロシマ 広島』 913ク  
朽木祥 講談社

『子どもたちへ、今こそ伝える戦争  
子どもの本の作家たち 19人の真実』 914コ  
長新太 など 講談社

『いしぶみ 広島二中一年生 全滅の記録』 916ヒ  
広島テレビ放送・編 ポプラポケット文庫

『ヒロシマの風 伝えたいこと、原爆のこと』 916ヨ  
吉永小百合・編 角川つばさ文庫

『おかあさんの木』 913オ  
大川悦生 ポプラポケット文庫

『一つの花 ヒロシマの歌』 913イ  
今西祐行 集英社みらい文庫

『続被爆者 70年目の出会い』 916ア  
会田法行 ポプラ社

## 『日本の戦争と動物たち』

1. 戦場に連れていかれた動物たち
2. 戦争に利用された動物たち
3. 動物園から消えた動物たち

東海林次男 他 汐文社 391

『絵本 アンネ・フランク』 絵本

ジヨヰフイン・プール あすなる書房

ふつうの女の子だったアンネだが、ユダヤ人というだけで隠れて暮らさなければならなかった。そしてある日、彼女たちが住む隠れ家が見つかり、ドイツの強制収容所に連れていかれる。そこで彼女はチフスにかかり短い生涯を閉じる。隠れ家での彼女の心をつづった日記帳は、のちに「アンネの日記」として出版される。伝記絵本。

『アンネの日記 増補新訂版』949フ

アンネ・フランク 文藝春秋

隠れ家での13歳から2年にわたる逃避生活は、物質的にも精神的にも次第に困窮を極めていくものだったが、そこには普通の日常があった。思春期の少女の心理も読み取ることができる。

『エリカ 奇跡のいのち』 絵本

ルス・バンター・ジー 講談社

強制収容所に運ばれる列車の中で、エリカの母は娘を助けるため、光が差し込む小さな窓から外に、赤ちゃんだった彼女を放り投げる。そしてエリカは生きながらえた。母の愛情が切ない実話をもとにした絵本。

『おとうさんのちず』 絵本

リ・シルヴイツ あすなる書房

戦争で故郷を追われた親子三人は、夏は暑く冬は寒い遠い東の国にたどりつく。おもちゃも本もなく食べるものもたりない毎日。ある日、市場へお父さんがパンを買いに出かけるが、お父さんが買ってきたものは食料ではなく、一枚の地図だった。少年ユリは「ひどいおとうさんだ！ゆるせない！」と怒る。しかし次の日、お父さんが壁に貼った地図に心を奪われた彼は、地名を唱えながら遠い地に思いをめぐらした。想像力は少年を世界中の場所に連れてゆき、地図のおかげでひもじさもまずしさも忘れることができた。「やっぱりおとうさんはただしかったのだ」という少年の最後のつぶやきが誇らしげでいい。作家の自叙伝絵本。

『父さんの手紙はぜんぶおぼえた』929シ

タミ・シエム＝トヴ 岩波書店

オランダにナチス・ドイツが侵攻してきた。ユダヤ人の少女リーネケは家族とはなれ、遠い村の医者のお家にあずけられる。心の支えは、父さんからのユーモアあふれる絵入りの手紙。手紙は、遠く離れて暮らす少女の心を和ませ、寂しさを乗り越えさせる。父親の愛情がたっぷり詰まったものだった。10歳のユダヤ人少女の実話。

『ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。』

マララ・ユスフザイさんの国連演説から考える』

石井光太 ポプラ社

パキスタン人の少女、マララ・ユスフザイさんの国連演説を基に、筆者が「なぜ、学校へ行くのか」という疑問に答える。世界にはまだまだ学ぶ権利を奪われた子どもたちがいることを理解しなくてはならない。写真と文でつづられたこの本は、ぜひ高学年に読んでもらいたい。

『せんそうしない』 絵本

たにかわしゅんたろう 講談社

「ちようちよとちようちよは戦争しない、金魚と金魚も戦争しない…戦争するのは大人と大人…」やわらかい絵の中で、谷川さんのするどい言葉が光ります。

